

第8回 府中市総合計画審議会会議録（要旨）

開催日時 令和3年7月30日（金） 午後2時～午後3時50分

開催場所 府中市役所西庁舎3階第2～4委員会室

出席委員 25名（50音順）

赤野秀二委員、市川耕作委員、伊藤敏春委員、上野和憲委員、
榎本久美子委員、奥村さち子委員、金子 憲委員、小島壽一郎委員、
古森寛樹委員、小山有彦委員、佐藤新悟委員、志水清隆委員、
長崎益治委員、中島正裕委員、奈良崎久和委員、
新島 香委員、にしみや幸一委員、濱中重美委員、平田嘉史委員、
藤江昌嗣会長、前川浩子委員、増山あすか委員、森田直行委員、
吉田征予委員、和田光一副会長

欠席委員 5名（50音順）

落合法子委員、中村洋子委員、峯 佳毅委員、森本 憲委員、
吉田ゆり子委員

出席説明員等

石橋政策総務部長、大井政策課長、高橋政策課長補佐、
岡村政策課副主幹兼行政経営担当副主幹兼総合計画担当副主幹、
大木政策課主査、橋本政策課主任、桜田政策課月額制会計年度任用職員、
三菱UFJリサーチ&コンサルティング（株）大塚氏、渡部氏

傍聴者 2名

議事日程

- 1 開会
- 2 審議事項
 - (1) 第7回総合計画審議会における委員意見等に関する対応について
 - (2) 第7次府中市総合計画前期基本計画（素案）前に掲げる導入文案について
 - (3) 重点プロジェクト（案）について
- 3 報告事項
序論（案）について
- 4 その他

会議録（要旨）

藤江会長 ただいまから、第8回府中市総合計画審議会をはじめます。事務局から本日の委員の出席状況を報告してください。

事務局 出席状況を報告します。
（出席状況及び会議有効成立の報告）

藤江会長 次に、事務局から本日の傍聴希望の状況を報告してください。

事務局 本日は2名の方が傍聴を希望されています。

藤江会長 傍聴を許可してよろしいでしょうか。

（異議なしの声あり）

藤江会長 事務局は案内をしてください。

（傍聴者入場）

藤江会長 次に、事務局から本日の配布資料を説明してください。

事務局 今回の資料は、事前に配付した6点と本日机上に配付している3点となります。
（配布資料の確認）

審議事項

（1）第7回総合計画審議会における委員意見等に関する対応について

藤江会長 前回の第7回審議会でも出していただいた意見等に関する対応をまとめたものとして、資料8-1と8-2が配布されていますので、この資料についての説明を事務局からお願いします。

事務局 資料8-1及び資料8-2に基づき説明します。
（委員意見への対応について説明）

藤江会長 資料について再確認したい、あるいは再検討したいという

ことがあれば、ご発言をお願いします。また、こういう表現があるという形で具体的に示していただけると大変助かります。

前川委員 ソーシャルキャピタルやフェーズ、自立分散型エネルギーなど分かりにくい言葉には注釈を、できれば同じページに入れてもらいたい。

事務局 分かりにくい言葉やカタカナ用語、アルファベットなどについて、計画書を仕上げていく最終的な段階では、注釈を掲載することを考えています。

前川委員 最終的に読んでいただくのは市民なので、市民がきちんと分かる言葉で説明するべきで、いわゆる業界用語、市役所職員と議員だけが分かっている専門用語では困るので、丁寧をお願いしたい。

藤江会長 注記については事務局の対応ということで、分かりやすい言葉で分かりやすい場所に掲載することを考えていただきたいと思います。

前川委員 昨日、もう一回読み直したところ、ひとり親家庭のところや文化・芸術のところの記述が薄い感じがした。ひとり親への支援に関しては、府中市は本当によくやっているの、そこを現状として書き入れないのはもったいないと思う。この3月にはパンフレットを作って配布をしたり、児童扶養手当を受けている方々に対して積極的に情報提供するなど、就労だけではなく、様々な暮らしや子育ての相談対応にすごく努めているので、追記を検討して欲しい。

また、文化・芸術では、市内で新しい方々、若い方々がアーティスト、ミュージシャンとして様々な活動をしている。そういうところをもう少し拾って、今、新しい芽が生まれているということも少し書き入れられないかと思う。音楽ではJAZZ in FUCHUもあるし、小さなカフェやギャラリーで美術の作品展示等々が行われている。そういう機運が生まれてきたというのは府中市にとってものすごく大きいことだと思う。アーティスト・コレクティブといった団体もあるので、その辺のところの記載をもう少し検討してもらいたい。

事務局 施策6「ひとり親家庭への支援」の現状と課題や施策の方向性等々の記述が足りないのではないかというご意見ですが、確かに様々

な相談事業や、委員さんご指摘の情報発信などにおいても、「ひとり親応援ブック」などを作成、配布したりしていますので、こういった取組を加えた形で記載ができないか、担当課とともに検討してまいります。

施策43「市民の文化・芸術活動の支援」については、音楽関係、美術・芸術関係の取組の記載をもう少し加えられないかというご意見についても、ご指摘の点を踏まえて記載の充実について担当課とともに検討します。

藤江会長 今、前川委員からご質問のあった2点については、起草委員会もあるので、そこで適切な場所に入れられるかどうかも含めて検討をしていただきます。それでは、本日の資料8-2の内容を基本計画の施策案として、この場では承認していただければと思いますが、よろしいでしょうか。

(異議なしの声あり)

(2) 第7次府中市総合計画前期基本計画(素案)前に掲げる導入文案について

藤江会長 資料の説明を事務局からお願いします。

事務局 資料7-4-1に基づきご説明します。

(「第7次府中市総合計画前期基本計画(素案)前に掲げる導入文案」について説明)

藤江会長 ご意見等がありましたら挙手をお願いしたいと思います。いかがでしょうか。

増山委員 「ウィズコロナ・ポストコロナ時代への対応」の部分ですが、前回、会長から「市民生活に寄り添う」は適切だが「地域経済に寄り添い」という文章は変ではないかという意見があったと思うが、この部分については、やはり修正が必要だと思う。

具体的には、「感染症により大きく影響を受けている市民生活に寄り添い、市民が抱える不安の解消に努め、地域経済の活力を取り戻していきます」という意味合いの表現に変えることを提案する。

藤江会長 切り分けて記述をしていくということで、文意や狙いは同じことになると思います。

裏面の「行財政運営」を含めて、ご意見等いかがでしょうか。

藤江会長 裏面に「社会情勢や経済状況、人口構造、市民ニーズなどの外部環境」とあるが、市民ニーズは外部環境でしょうか。例えば、医学用語だと、空気を吸って気管支に入っていく部分は外部という意味合いもあるとのことですから、行政の外という意味だと確かに市民ニーズは外部ですが、ここもそういうものなのでしょうか。経済状況というのは外部かもしれませんが、人口の変化や市民のニーズは、自治体からすると非常に大事な要素というところもあるので、そういった趣旨が伝わるように表現を工夫する必要があると思います。

その次の「限られた経営資源を有効に配分及び活用し、最適な状態で持続させる」とありますが、「最適な状態」というものの中身がよく分かりません。外部が変化する中で、それに柔軟に対応して、行政サービスとか府中市の持続性を保っていくことが狙いだと思うので、この「最適な状態」という表現は、あまりに不明確だと思います。誰も文句が言えない表現できれいにまとめてしまうと、結局、何も言っていないのと同じことになってしまうので、この辺りも表現としては工夫がいるのではないかと思います。

また、「本計画の中に、行革に関する計画を内包する。」というところがポイントとしては大事だと思うので、総合計画が上位で、行財政改革等のプランというのは下位ですから、内包するのはいいけれどもそれが独り歩きしては困るので、そういう意味では、総合計画との整合やバランスを保つという趣旨が入っていることが必要です。そちらに任せてしまうことを認めている表現にとられないよう注意がいると思います。文案は具体的にこの時点では思い浮かびませんが、狙いが明らかになるように表現を明確にする必要があると思うので、そのような文章表現を検討いただくということによろしいでしょうか。

(異議なしの声あり)

それでは、この素案を原案として、今回、意見のあった点を検討していきながら作成することによろしいでしょうか。

(異議なしの声あり)

(3) 重点プロジェクト(案)について

藤江会長 続きまして「重点プロジェクト(案)」に進みます。ご質問、ご意見があれば出していただければと思います。

にしみや委員 今回の重点プロジェクトでは方針において数値目標を設定しているが、これは全部アウトカム指標だが、どういう形でモニタリングをしていくのか、その仕組みについても説明してほしい。また、モニタリングして追いかけていくということであれば、数値目標の進捗はこういう形で把握をして、重点プロジェクトの実効性を高めていくという考え方も併せて記述する方法もあると思うがどうか。

事務局 重点プロジェクトの指標のモニタリングの関係ですが、現在、令和3年の基準値が設定されていませんが、こちらは今年度中にアンケート調査を実施して、そこで数値を把握する予定です。その後、前期基本計画の4年間、毎年これらの指標の項目についてアンケートの調査を行い、満足度を把握したいと考えています。

もう1点の実効性をどのように高めていくのかという、今後の進行管理などの関係ですが、今回、重点プロジェクトと、まち・ひと・しごと創生総合戦略とを一体化するにあたり、総合戦略の推進協議会から、今まで培ってきたマネジメントの手法を参考としてほしいというご意見をいただいていたこともあり、外部評価も含めて方法を考えていきたいと思っています。

にしみや委員 次回以降に進行管理、重点プロジェクトも含めて評価方法が示されるという理解でよいか確認したい。また、要望になるが、アンケートでの評価の把握方法というのは、例えば市政世論調査で測るなど、ある程度具体的に明示をしてほしいと思う。

事務局 進行管理については次回お示しします。アンケート調査について現時点で考えている方法ですが、市民意識調査という無作為抽出の市民3,000名を対象に毎年行っている調査がありますので、その中の項目として調査をすることを想定しています。

長崎委員 第6回審議会で「プロジェクト3」のスポーツ・文化・芸術の部分については数字で評価するには少し難しい部分もあるのではないかと発言をしたが、現時点において、この重点プロジェクトの中に数字での評価が難しいものはあるか。

事務局 重点プロジェクトについてですが、プロジェクト3に目標が3つ掲げられ、その下に取組が、とあり、その下に対応する主要な取組を位置付けています。この主要な取組の施策の中で定量的な指標が設けられているものについては、その指標をKPIと捉え、数値の進捗度合いをもって評価をしたいと思いますが、そうした指標がないものについては定量的な評価が難しいので、定性的な評価をもって代えたいと考えているところです。

長崎委員 先ほど、前川委員からの文化・芸術のところが弱いのではないかという発言については、実は私も同意見を持っていた。ただ、重点プロジェクトとして取り組むにあたり、基本的に先ほどの基本計画（素案）をベースにKPI評価などをしていくのであれば、やはり指標の部分は少し弱いという感じがした。もし先ほどの基本計画のところをさらに強化をするなり、重点プロジェクトにおけるKPI評価をするに当たっての幅広い、もしくは芸術・文化・伝統芸能・スポーツを含めて活性化につながるような考え方があれば、ぜひ盛り込んでもらいたい。

藤江会長 具体的に要望の内容を伝えていただいたので、起草委員会もありますし、そういったところも含めて検討していただきたいと思います。そのほか、いかがでしょうか。

前川委員 重点プロジェクトの中に掲げられている様々なことは、市政の方向や予算の中で示されているものだが、重点プロジェクトとしてこれを行うことで、その先というのは、どこかに示されるのかということを知りたい。例えば、今、府中市の子ども・子育てに関しては、子育て世代包括支援センターを作るなどすごく進んでいるが、これから先どうしていくのかというところが、もう少し見えたほうが良いのではないか。1つ1つの事業がここに示されて、これ自体は大事であるが、これらが進められた先にあるものが示されると、なお良いと思う。

事務局 この先8年間については基本構想の中で大きな考え方を示し、4年間については基本計画の中で考え方を示すという前提があります。その中で、さらに特化して、この4年間注力していくものを括り出して表現するという形になっていますので、重点プロジェクトの中に将来にわたるまで広く書き過ぎてしまうよりは、ある程度絞った形で書かせていただきたいと考えているところです。

藤江会長 重点プロジェクトの記載については今説明のあった考え方もありますので、その辺を踏まえて起草委員会でもう一度検討させていただくということで、ご了解いただければと思います。

前川委員 中心市街地は、けやき並木のほか、再開発ビル、新しくオープンしたミッテン、そして、ペDESTリアンデッキなど幅広い。その意味でエリアマネジメントという言葉を実施60「けやき並木と調和したまちづくりの推進」に入れてもらったのだが、「けやき並木周辺整備事業」と限定して良いものかどうかということを考えてもらいたい。

藤江会長 固有名詞として「けやき並木周辺整備事業」というものが固定されているのであれば、それを使わざるを得ないし、そこまで至っていないのであれば、定義というか、名称についても少し検討してほしいという2つの解釈ができそうですが、その辺りはどうでしょうか。

事務局 「けやき並木周辺整備事業」については、従来、府中市の中心ということで捉えてきた用語ですので、これを特に変えるというところではありません。実際の取組の内容としては、あくまでも、けやき並木を中心とした周辺エリア全体と捉えていますので、当然、ミッテンやフォーリス、くるる、ルシーニュなどを含む表現として捉えています。

前川委員 どうしてもけやき並木という言葉が独り歩きして、今まで来ているのが府中なのだと思う。できれば地域を中心に、そのエリアをどうするのかという考え方をここで推し進めていかなければ、府中市の中心市街地の発展はないと思っているので、検討して欲しい。

奥村委員 先ほどもこの重点プロジェクトの考え方、位置付けについてご説明があったが、プロジェクト3で「活気に満ちた交流が盛んなまちづくり」があるが、この内容については、どちらかというとハード面の施策が中心だと思う。活気があるまちづくりでは、ソフト面も必要だと感じていて、やはり、まちづくりは市民が主体になると思う。前回の第6次の重点プロジェクトには、市民が主役のまちづくりがあったが、プラッツができて、活動団体も増えたこともあるためか、今回はそういう表現はない。この活気があふれるまちづくりでは、市民が参画することがとても大事だと思っているので、そういう部分が入れないのかと考えている。

この基本計画（素案）の中にも、105ページに市民協働に関する内容が網羅されており、また、これまでの審議会での基本構想の議論においても協働の部分をクローズアップしてきたという経緯もあるので、この素案の中の施策、例えば、協働を促進する環境の整備や、地域の仕事を増やす活動を支援していく、そういう部分もプロジェクトの中に入れたら良いと思う。

事務局 今のご意見で、市民が主役、協働というソフトの部分ですが、重点プロジェクト（案）の2ページに位置付けの図がありまして、その中で、プロジェクト1、2、3と丸がある外側に「市民とともに協働により全てのプロジェクトに取り組んでまいります。」と書かせていただいたのは、市民協働については、基本計画の中のほとんど全ての施策に取組を掲げさせていただいていることから、重点プロジェクトにおきましても、全てのプロジェクトに横断的に関わってくる重要なものであるという考えを持っています。

ページが戻りますが、1ページの冒頭の「1 重点プロジェクトの位置付け」の2行目にも、「市民との協働により、重点的かつ優先的に実施すべき、地方創生に資する～取組を示す」ということを書いており、全体的に市民協働の視点を持って進めていくものと考えています。

奥村委員 全体的にということの説明は分かった。別視点だが、前回のまち・ひと・しごと総合戦略の基本目標の中には、起業や創業のことが明記されていたが、今回はこのプロジェクトには入れないのか。

事務局 11ページになりますが、プロジェクト3「活気に満ちた交流が盛んなまちづくり」のリード文に「地域産業の振興を図ります。」という文章があり、また、次の12ページの目標1のリード文にも「地域経済の活性化を図ります。」と掲げています。また、取組「中心市街地の活性化」にも同様の記述があり、少し大括りの表現となりますが、経済の活性化、地域経済の振興、産業の振興という言葉でしごとに対する支援を表現させていただいています。

奥村委員 そうすると、具体的に対応する主要な取組が掲げられているが、そこを重点的にやるということではなく、全体的な文章も含めたことについても取り組んでいくという考え方で良いか。

事務局 先ほどの考え方に戻りますが、あくまでも重点プロジェクト

は、この3つの目標に位置付けた主要な取組です。ただし、市の施策としてはこれだけをやるのではなく、総合計画の全般、基本計画の各分野の施策を着実に進めていき、その中で、より注力して取り組むものを重点プロジェクトとして掲げています。

和田副会長 2ページの図に、プロジェクト1と2、あるいは3の重なり合ったところは何を指すのか。恐らく、この3つが重なり合ったところが協働でやっていく考え方になると思うが、この図の書き方、どういう形でこういう書き方になったのかを確認したい。

事務局 この図が重なり合っている部分について具体的にこの取組だという想定はありませんが、それぞれのプロジェクトが相互に関連し合っていて進めていくというイメージを示しています。

藤江会長 たくさんの意見が出ましたが、今の図の解釈も、通常、協働というと、官と市民、また民間企業などの重なりが協働で、この図は協働が外に出ているので、重なりがどこに関わるのかという質問だったと思います。

増山委員 4ページの目標1「危機管理対策の推進」で、今回はコロナのこともあって「感染症対策の充実」と「災害対策の強化」の2つ項目があり、それぞれ対応する主要な取組として、「災害時医療体制等の整備（施策3）」が両方に入っている。通常時の医療体制と災害時の医療体制というのが一緒に書かれているが、通常時と災害時では医療提供体制は違ってくると思うので、できれば書き分けたほうが良いと思う。

また、災害時に日本は医療提供体制が逼迫してしまい、貧弱だというのが課題として挙がっているが、この医療提供体制を市が整備できるのか。国と都と市とそれぞれ役割があると思うが、これは市の計画なので、市でできる範囲に限って書く方が良いかと思う。市民の中でも、どこまでが市がやることなのか明確ではないので、その辺の書き分けができるか検討してもらいたい。

藤江会長 貴重な意見として受け止めたいと思います。それぞれが、どこまでやれば良いのかという意味では、準備の仕方にも関わってくるので、とても大事なご指摘だと思います。

前川委員 目標1の「子育て世代に対する支援の充実」について、1

点気になるのが、府中市では、今、子ども食堂やパントリーが地域を支えているところがあり、市民団体だけではなく市役所の子育て支援や生活援護等の部署とともにネットワークができつつある。コロナ前から子ども食堂は始まったが、コロナになり市民団体の活動が活発になるとともに、市の支援体制も充実してきた。これからは、さらにそれをどう展開していくかも1つのファクターだと思う。本当に府中市は妊娠期から子育て期までの切れ目のない支援体制を敷いているので、市民とともにやっていくという表現をここに入れたらどうか。これから先、こうした展開を広げていくことが必要になると思うので、考えを教えてください。

また、言葉の使い方で、「相談支援」を使っているところがあるが、障害のある方々のサポートをしていると、「相談支援」と「相談・支援」は意味が違うので、使い方を確認してほしい。

藤江会長 2番目の表現は再確認をお願いしたいということですが、最初の方については、いかがですか。

事務局 基本的な考え方としては、今おっしゃっていただいた各種団体で取り組んでいただいているものを、市も一緒になってさらに広げていくという、まさに市民協働の中での取組ということで、現在既に取り組んでいるものと考えています。また、その辺は基本計画の施策や個別計画の中にも盛り込むことで進めていくものと捉えています。

また繰り返しになりますが、重点プロジェクトは特化したものを記載していますが、いただいたご指摘をもとに何か表現できる場所があれば、起草委員会でご検討いただきたいと考えています。

藤江会長 それでは、重点プロジェクトについて、起草委員会で検討していただく内容を結構たくさんいただきました。資料7-6「重点プロジェクト(案)」について、表現等を含めて検討するという事を織り込んで、承認していただければと思いますが、よろしいでしょうか。

(異議なしの声あり)

報告事項

序論(案)について

藤江会長 続きまして、序論(案)について、まずは、事務局から資料の説明をしてください。

事務局 資料 7 - 5 に基づき説明します。
(序論(案)について説明)

藤江会長 事務局から序論(案)の説明がありました。推計の数値変更などを含めて、一番新しい情報により修正を行っていますが、今後も修正が起こり得ますので、修正された後、また委員の皆さんに報告して確認をしていただきますので、暫定的な図表となります。

財政状況のやりくりについて、もう少し市民の方に分かりやすい工夫がほしいということで私から話をしており、今回、図表、折れ線グラフなどが結構入っていますが、分かりやすい説明という意味では、記述的な部分なども含めて、まだ工夫の余地があると思っています。人口動向と財政との関係や社会潮流の関係を含め、その辺も意識した記述もほしいので、暫定的なものとなりますが、全体の構成について、修正してページ数も少し増えていると説明がありました。

何かご質問等があれば、お願いします。

にしみや委員 今後修正等があるようなので、いくつか意見をさせていただきたい。まず、財政指標の関係について、間に合うのであれば、コロナの影響をまともに受ける令和 2 年度の指標まで入れてほしい。

次に、社会動向と課題の(6)「価値観の多様化・共生社会の実現」について、昨今のオリンピックの直前で開会式等を巡っているいろいろあり、その中でクローズアップされてきたのが人権の話だと思う。価値観の多様化と共生社会の実現に合わせて、やはり人権を大切にすることとは特にオリ・パラを通じて見えてきた課題だと思うので、記述として加えていただきたい。

それから、この社会動向の課題の中に財政についての記述がない。確かに第 3 章に財政の記述があるが、行財政改革の計画も含めた総合計画という位置付けであれば、やはり、この最後(9)に財政面の課題として、分かりやすい形でまとめて記述すると良い。例えば、地方消費税の変化など国の政策動向の影響を受ける部分があり、課題として整理しておく必要があると思うので、検討いただきたい。

藤江会長 このご提案について、金子委員から何かありましたらお願いします。

金子委員 先ほどの議論とも関係すると思うが、導入文案のところで会長が説明されたように、今回の起草委員会でもいろいろと議論になっ

たが、府中市はこれまで基本構想が一番上にあって、その次に基本計画、その下に行革プラン、さらに下に公共施設マネジメント推進プラン等の個別プランと、とにかく行財政運営や行財政改革についての記述が、いろいろな箇所に記載されているので、やはり1つにまとめたほうが良いというか、行革に関する計画体系を整理したほうが良いということで、先ほどの導入文案になった。それとの関係で今回、序論(案)についても財政のことを、そこに包含的にまとめて書いたほうが良いということで、議論してきた経緯がある。

財政指標に関しては、コロナの影響を受けた令和2年度のデータを入れた方が良くと思う。財政に関する記述を、どこに記載するかについては、もう一度、起草委員会で議論しなければならないと思うが、全体の流れとしては、ここに財政のことをまとめて示すのでも良いと思う。

簡単に言うと、一般会計予算ベースでの数値目標が、いろいろな箇所に記載されているが、やはり全体的な行財政運営と行財政改革の大きな骨組をここにまとめて記載することが、とても重要だと私は思う。細かい点は、8月の起草委員会で、今一度、検討させてもらいたい。

藤江会長 金子委員からのご意見もありましたが、にしみや委員のご提案も含めて起草委員会で検討していただくことにします。

増山委員 10ページの「本市の財政見通し」で、令和7年度までの財政の計画が書いてあるので、これが一番重要な表だと思う。これがうまく表れてくると、市民が見たときにも分かりやすくなると思うので、参考でいろいろな表やグラフが出ているが、これは過去の実績のことだけが書いてあるので、大変かもしれないが、できればこの財政見通しに合わせて、令和7年までこの先を予測した部分までを入れ込むと分かりやすいので、提案したい。

特に、14ページの「基金残高」は、平成25年からずっと右肩上がりで積み増しているが、今後は新庁舎建設、学校施設の建て替えで取り崩していく部分があるので、ここが減少していくことなどが分かりやすくないと、どんどん増えているのだから取り崩して市民生活に使えば良いといった意見になると思うので、そういった予測も書いた方が良くと思う。

公共施設等に要する費用試算の表について、確かに平成29年に作られたものだが、もう令和になって3年目なので、平成表記については令和に置き換えた方がよい。

藤江会長 財政に関わる部分では、同じ章にまとめて記載するかについても検討課題として出たほか、増山委員から財政の見通しにあわせて、他のところも予測値を出せれば良いと意見がありました。

財政見通しの表は一番下のところに黒三角がありますが、これは第6次後期計画でも同じフォーマットでした。考え方として、見通しの推計方法は次のページに書いてあり、ここまでは財政担当課も算出していると思いますが、後ろのところを延ばすというのは、なかなか難しいとも聞いています。プラスになるのか、マイナスになるのか、その方向性によって考え方、やりくりの仕方も変わってくると思うので、その辺りのところをグラフ化するのか、あるいは言葉、表現として、金子委員の発言にもありましたが、基本的な考え方の記述ということで、ベースを示すということも選択肢としてあると思います。

その辺を含めて財政部分については、あまり関連付けの分からない表やグラフがあっても、逆に読みにくくなってしまう恐れもあるので、必要な部分を繋げながら伝えていく、ということで検討をお願いしたいと思います。

長崎委員 「地球環境への配慮」の部分で、カーボンニュートラルが出てきたが、グラフは載せるのか。載せることが望ましいとは思いますが、その瞬間にそれが目標値になってしまう感じもあり、どういう形で取り組むかは本当に幅広い内容なので確認したい。

また、「情報通信技術の活用」で、Society5.0の話が出てきたが、これも本当に幅広い話で、これまでの論議を聞いている中では、行政サービスのデジタル化が主軸にはなっているが、内閣府が出している以上、ここに載せないわけにもいかないといった感じで記載されているように見える。ただ、Society5.0を載せるのは少しギャップがあると思う。内閣府ではムーンショット計画、アバターなどいろいろやっているが、行政のサービスとして、現実問題とは少しかけ離れている部分があると思うので、肌感覚、現状を教えて欲しい。

事務局 まず、カーボンニュートラルの関係について、基本計画の中でも取り組んでいく方向性を示しており、本市としても、ここに力を入れていく必要があって、そこに向けて動き出したいと考えています。グラフや図を入れるかについては、全体の見せ方も含め、今後検討させていただきます。

次に、Society5.0やICTの関係ですが、こちらも国の動きの中で、デジタル庁等ができ、より具体的な方向性も示されると考えています。

こちらは、社会潮流なので、大まかな書き方をしていますが、基本計画の中では、デジタル化に向けて取り組んでいく必要があることを認識していますが、具体的にどういうことをやるべきかについては、まだ見えていないところがありますので、国の動きを注視しながら取り組んでいきたいと今現在考えている状況です。

長崎委員 カーボンニュートラルについては非常に難しいと思うので、例えば、ごみの削減だとか、そういうところに限定せずに取り扱ってもらいたい。情報通信については、やはり国の動向もあるだろうが、市民目線でのサービスを重視した取組をお願いしたい。

藤江会長 新しい生活様式の項目について、やはり1年たって違和感みたいなのは私たちでも少なくないと思います。8年間ということもありますので、図の取り扱いなどについても、起草委員会で検討していただきたいと思います。

前川委員 「本市の財政見通し」で、気になる言葉の使い方がある。4行目の「歳出では、児童福祉費が減少する一方、高齢者人口や生活保護世帯が増加することで」という部分で、生活保護世帯の増加をどのように考えているのか。コロナになってから確かに増えてはいるが、ここに特筆して出すほどのことなのか。私の肌感覚では、少し違うと思う。前のページには、扶助費が上がっているなどいろいろ書いてあるが、ここでいきなり生活保護世帯というのは、私には違和感がある。

また、SDGsは、せっかくここにきれいなマークが載っているので、もう少し記述がほしい。これからの市民生活、行政ともにSDGsの考え方がなくては成り立たないというのは、グローバルな認識なので、SDGsについて皆様に分かるように記載してもらいたい。

事務局 生活保護の記載について、大きな視点としては、お話が出ている扶助費、社会関連経費が伸びているというところを表現するため、高齢者人口の増加や生活保護世帯の増加を例示して、財政部門でこのような書き方をしているかと思いますが、今ご指摘がありましたように、あえてこれを書かなければいけないというものではないと思いますので、この表現についてはまた、これからの起草委員会の中で確認をさせていただければと思います。

事務局 2点目のSDGsについては、序論に記述していますが、基

本計画の中でも各施策の取組がSDGsのどのゴールに寄与するかを明示する形を取っていますので、序論または基本計画に、分かりやすい形でSDGsの説明を追記したいと考えています。

基本計画では、各施策のページの最下段に「SDGsとの関連」の項目があり、(1)から(17)まで数字が振ってあるところがSDGsのゴールを示していて、該当するところに丸をつけています。実際の計画書のデザインでは、この表をそのまま載せるのではなく、アイコンなどで表示する方法や、各施策とSDGsのゴールとの対応一覧のようなものを載せる方法もあるかと思しますので、その辺りは検討させていただきます。

藤江会長 後半の説明は、基本計画案のところで、各施策に17のゴールを表形式で丸をつけているところを、視覚的にわかりやすい形で示していくということです。

それでは、序論(案)については、前回からの修正ということで、基礎数値の変化や修正された部分がありましたが、本日出た意見についての検討も行い、次回、ご報告したいと思いますが、概ねこのような形式、構成で進めていくということで、了承してよろしいでしょうか。

(異議なしの声あり)

その他

藤江会長 委員の皆さんから何かありますか。特になければ、事務局からは何かありますか。

事務局 事務局から1点連絡します。

(次回開催日は9/9(木)午後3時から、会場は北庁舎第1・第2会議室)

藤江会長 それでは、次回は9月9日(木)午後3時から開催することとし、本日はこれで散会とします。

以上